



第559号

公益財団法人 千鳥ヶ淵 戦没者墓苑奉仕会
102-0075 千代田区三番町2
電話 03 (3261) 6700
FAX 03 (3261) 6712



http://www.boen.or.jp
郵便振替口座 00140-2-42556

編集人 榎枝 宗男
発行人 杉本 順則



令和5年 謹賀新年

年頭のご挨拶



(公財) 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
会長 鈴木 俊一

明けましておめでとうございます。
わが国でも、新型コロナウイルス感染症は未だに収束せず、また、ロシアのウクライナ侵略は長期化の様相を呈し、世界経済の下振れリスクが懸念されています。

そのような中にも、昨年を振り返れば、10月18日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を仰ぎ秋季慰霊祭を厳粛に挙行することができました。本行事に対して関係者各位から賜りましたご支援、ご協力に対し、改めて衷心より厚く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症第7波にみられたように、度重なる感染者数のピークがあり、戦没者慰霊の灯を継続的に灯(とも)すことができるか危惧しておりましたが、例年と同様、年度当初から国・東京都の感染防止の基準に則り、多くの関係諸団体による法要行事が執り行われたことに対しま

海自献花 (マキキ日本海軍墓地：ハワイ)



令和4年度遠洋練習航海を終えて
練習艦隊司令官
海将補 小牟田秀覚

この度は、広報紙「千鳥ヶ淵」への寄稿という貴重な機会を賜り、誠にありがとうございます。
まずは千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会の皆様へ、その活動に対し心から敬意を表します。また、遠洋練習航海出発前には、今年3月に幹部自衛官に任命した実習幹部総員とともに千鳥ヶ淵戦没者墓苑を訪問し、我が国防衛のために

8月22日までの間、令和4年度遠洋練習航海を実施しました。練習艦「かしま」「しまかぜ」の2隻に、タイ王国海軍少尉1名及び実習幹部約160名を含む総員約530名の隊員が乗艦しました。今年度の航海は、西回り世界一周であり、横須賀を出港後、マラッカ海峡、インド洋、スエズ運河、地中海、大西洋、パナマ運河、太平洋を経て横須賀に帰港し、世界の海や海上交通の要衝を体感しました。

また、航路上の沿岸各国海軍との親善訓練を実施し、信頼関係の醸成に寄与することができました。訪問国は、7か国(スリランカ、オマーン、ジブチ、フランス、イギリス、アメリカ、パナマ)9寄港地でした。今年度は、令和2、3年度に比べ、新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことから、訪問国にて人的交流を学ぶとともに、外出して歴史、風土等を学ぶことができ、訪問国との友好親善を増進することができました。特に、今年度は日英同盟締結120周年の年であり、「かしま」はロンドン、「しまかぜ」はポーツマスへそれぞれ寄港し、節目の年を祝すとともに、イギリスとの防衛協力関係強

団体による慰霊法要が行われ、また、関係団体や一般の方々のご参拝についてはコロナ禍以前よりは少ないものの、回復の傾向がみられます。その一方で、戦没者崇敬思想の普及の指標となる参拝者数や会員数は減少の一途をたどっております。また、ご遺族等の会員を含めた関係者の高齢化が進む中、これら諸課題の解決策等を含み、ウィズコロナ、ポストコロナ時代を考慮した奉仕会業務のあり方等について検討を開始しております。一日も早く成果が結実すること強く望んでおり、令和5年においても引き続き具体化を進める所存であります。

今年度の航海は、西回り世界一周であり、横須賀を出港後、マラッカ海峡、インド洋、スエズ運河、地中海、大西洋、パナマ運河、太平洋を経て横須賀に帰港し、世界の海や海上交通の要衝を体感しました。また、航路上の沿岸各国海軍との親善訓練を実施し、信頼関係の醸成に寄与することができました。訪問国は、7か国(スリランカ、オマーン、ジブチ、フランス、イギリス、アメリカ、パナマ)9寄港地でした。今年度は、令和2、3年度に比べ、新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことから、訪問国にて人的交流を学ぶとともに、外出して歴史、風土等を学ぶことができ、訪問国との友好親善を増進することができました。特に、今年度は日英同盟締結120周年の年であり、「かしま」はロンドン、「しまかぜ」はポーツマスへそれぞれ寄港し、節目の年を祝すとともに、イギリスとの防衛協力関係強

化を発信することができました。
例年、遠洋練習航海では、日本海軍が関わる海戦が生起した海域を航行する際、洋上追悼行事を実施するとともに、訪問国では日本軍の御霊が眠る墓地での追悼行事等を実施しています。今年度は、①スラバヤ沖海戦で散華された御霊、②第一次世界大戦の際、船団護衛のため地中海に派遣された第二特務艦隊の任務行動中に散華された御霊、③ミッドウエー海戦で散華された御霊に対し、それぞれ洋上追悼行事を執り行いました。また、スリランカ(コロンボ)、イギリス(ポーツランド)、アメリカ(パールハーバー)にて、同地に眠る御霊に対し、献花による追悼を行いました。更に、ロンドンではイギリス軍戦没無名戦士、パールハーバーではアメリカ軍戦没者に対し、それぞれ献花を行いました。

今日日本の繁栄があるのは、御霊の御献身の賜物であることを深く記憶に刻み、深甚なる敬意と感謝を捧げることが忘れてはなりません。日本から遠く離れた地で散華され、戦後77年が経過し、ご子孫のご記憶が薄れゆく御霊がいらっしやうと思っております。係る情勢下、海外各地を訪問する練習艦隊は、現地での追悼を重要な行事と捉えており、引き続き洋上及び訪問国での追悼行事を実施します。(第二面につづく)



海自練習艦隊航路図 map



(第一面からつづく)
皆様におかれましては、練習艦隊の係る活動へのご理解を賜るとともに、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。最後に、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会の皆様のご活動に重ねて敬意を表するとともに、寄稿の機会への感謝を申し上げます。ありがとうございました。

硫黄島遺骨引渡式の開催

12月6日、本年8月及び10月に引き続き厚生労働省が硫黄島からの遺骨引渡式と遺骨収集団の解団式を厳かに執り行われた。本年の遺骨引渡式は全て硫黄島のみであるが、遺骨引渡式はその都度実施されている。今回、29柱のご遺骨をお迎えし、駐元厚生労働副大臣政務官が解団式の挨拶で「硫黄島での2週間にわたり、地熱で極めて高温の地下壕や、大量の土砂に埋もれた場所での遺骨捜索など、大変厳しい作業の連続であったと伺っております。皆様の献身的なご努力により29柱のご遺骨をお迎えすることができ、厚く御礼を申し上げます」と慰労の言葉で結んだ。次回の引渡式は2月16日に予定されている。



12月6日、本年8月及び10月に引き続き厚生労働省が硫黄島からの遺骨引渡式と遺骨収集団の解団式を厳かに執り行われた。



中に亡くなられた方々の遺族の会で、平成6年発足以来、村田会長を中心に折に触れ現地を訪れ、平成15年以降、現地に桜の苗木を百三十本植樹するなど、シベリア抑留中死没者の慰霊供養に努めている。また、偶数月の17日には墓苑を訪れ、慰霊参拝を実施している。

ソ連抑留戦友・遺族会 東京ヤゴダ会 第26回鎮魂慰霊祭

11月3日、ソ連抑留戦友・遺族会東京ヤゴダ会による第26回鎮魂慰霊祭が約60名の参加を得て執り行われた。式典では、先ず、鎮魂慰霊実行会の高本昌彦氏による開会の辞が述べられ、冒頭に東京ヤゴダ会廣島昭三会長が8月13日95歳で逝去との報告後、約7年半の期間にわたってシベリアに抑留されたご尊父様との思い出に触れつつ東京ヤゴダ会事務局長に就任した経緯を紹介した。その後、全員による国歌斉唱、黙祷が行われた。安養院住職千葉裕定のよる読経に続いて、追悼の言葉では、「ヤゴダ会の名前の由来は抑留されたロシアは極寒の地で夏がとても短いものです。その夏、灰色の色の台地でサクランボのような『赤い実』、ヤゴダの実がなるそうです。それがとても印象的で、赤い実を見て元気が出て

希望に燃える気持ちに誰もがなつたそうです」との故郷廣島昭三会長のお言葉を島本事務局長が紹介した。その後、岩笛吹奏、奉納民謡等の奉納行事が行われ、参加者による追悼の言葉が行われた後、参加者による追悼の言葉が述べられ式典は終了した。なお、式典では喇叭伝承会が喇叭吹奏により支援した。主催団体の東京ヤゴダ会は、昭和23年シベリア・チタ州にあったブカチャーチャ収容所からの帰国者が東京駅に集って戦友会が始まり、その後仲間の帰国推進等を目標に会が発足し、平成9年からは毎年11月3日に千鳥ヶ淵戦没者墓苑において慰霊行事が行われている。

全国仏教者による 戦没者慰霊法要

11月18日、世界連邦日本仏教徒協議会関西宗教懇話会共催による、「全国仏教者による戦没者慰霊法要」が執り行われた。墓苑における慰霊法要は今回で8回目となる。世界連邦は、ニューヨークに本部があり、世界平和を目指す団体で、日本仏教徒協議会も加盟している。関西宗教懇話会は、天台宗や真言宗、神道、キリスト教などが、宗旨宗派を越えた勉強会として約四十年前に発足した。

式典には、仏教各宗派団体の僧侶31名が参列し、墓苑西から世界連邦日本仏教徒協議会 理事長 天台宗甲山寺 住職 可児光永導師の引率により進み、国旗掲揚塔前で奉仕会理事長へご挨拶した後、墓前へ進んだ。墓前にて香燭文伽陀、懺悔文に続き、導師表白において「千鳥ヶ淵墓苑は無名戦没者の墓として三十七万余柱の遺骨を奉祀する墓苑にして祖国の御楯となつて外地にて倒れたる人々を弔う所である。しかしながら、未だ祖国に帰らざる遺骨は幾十万ある。終戦より七十七年、それらすべての御霊を思い供養の法会をつとめるものである。仰ぎ願わくば、護国のために散華したる諸英霊、我等の微意を享受し、永く上品の

シベリア抑留中 死没者のための鎮魂祭

10月17日、シベリア・クラスノヤルスク遺族会(代表村田みつ氏)主催によるシベリア抑留中死没者のための鎮魂祭が行われた。式典は黙祷に始まり、フルートによる国歌吹奏後、全員が献花を行ない、厳粛な中に慰霊式典は終了した。同会は旧ソ連クラスノヤルスク抑留



10月17日、シベリア・クラスノヤルスク遺族会(代表村田みつ氏)主催によるシベリア抑留中死没者のための鎮魂祭が行われた。式典は黙祷に始まり、フルートによる国歌吹奏後、全員が献花を行ない、厳粛な中に慰霊式典は終了した。

蓮台に鎮座され給らんことを、また願わくば、祖国の弥栄のため、今後一層道義国家再興に冥護をたれたまひ、また、宝祚長久ならしめたまわんことを、更に願わくば、世界に蔓延したる新型コロナウイルスを終息せしめ、人々をして平和安穏ならしめ賜んことを(趣旨)と述べた。引き続き、開経偈の後、全員による般若心経の読経があり、最後に総回向が行われて法要は終了した。この慰霊法要は、宗旨宗派の垣根を越え、諸大徳の先生方が出席し、世界平和の実行だとして行っている。



11月18日、世界連邦日本仏教徒協議会関西宗教懇話会共催による、「全国仏教者による戦没者慰霊法要」が執り行われた。

「かけがえない日本、かけがえない世界(14)」 戦争の「消費」と「忘却」

稲城市 柴本 一希

私の祖父は終戦の年、広島に居た。昭和3年生まれの祖父は、広島市近郊の工場に勤めていたらしい。原爆の被害に遭い、傷を負った人々が電車に乗って逃げてくるのを見たと言っていた。当時小学生だった近所のおばあさんは、爆撃によって街が焼かれた時の光が山ごしに反射し赤く見えたと言っていた。

私の身の回りの人の戦争体験談は、このようなものである。直接戦地に赴いた人ではないが、一様に何とも言えない表情を浮かべていたと思う。戦争体験を聞くとき、それが直接であつても、テレビなどであつても、戦争というものの嫌悪感を誰しもが抱くであろう。学校教育においても戦争の悲惨さについての学習が行われ、戦争忌避すべきもの、という考えは社会に浸透している。しかし、一方で我々は戦争を消費物としても受容している。毎年のように戦争映画はつくられ、兵器の玩具は根強い人気

があり、戦争関連の書籍はあまた販売されている。それらは、それぞれの形で戦争というものの悲惨さを伝えるという側面も多分にありますが、それと同等かそれ以外に、エンターテインメントや娯楽として受け入れられていることは事実である。それは戦争を経験してきた人々でさえも享受してきた。古い雑誌などの表紙にはゼロ戦や戦艦のイラストが多く見られ、内容もいわゆる戦記物がよく掲載されたし、戦争映画も多々つくられた。戦争の悲哀を描く作品は様々誕生し、しばらくすると戦艦大和をモチーフとした「宇宙戦艦ヤマト」が生まれる。私は別にそれらを「悪」として糾弾したいわけではない。そもそも戦争、つまりは生と死という問題は、古来より芸術の至上命題であるように、それに惹かれることは自然なことである。

問題は、そういったものに惹かれる自己というものに対し、個々人が自覚的であるかどうかということである。我々は忌避すべき戦争という現象を、同時に消費対象としても扱ってしまうという、根本的な矛盾を抱えていることを、果たして十分認識しているのだろうか。残念ながらそうとは言えないと私は思う。ここで挙げたような議論をほとんど見ないことは、それを傍証している。

1954年、映画「ゴジラ」が公開された。この作品内に出てくる「怪獣」ゴジラは、関係者のインタビューからも窺えるように、太平洋戦争によって亡くなった英霊(だから通常兵器では倒せないし、倒した時には悲壮な演出がなされる)であるという有力な説がある。戦争を忘れて繁栄していく人々への、一種の警告としてゴジラは劇中に現れた。戦後十年も経たない時代に制作側がそのような意識をもっていたということは、考えさせられること多くある。

これらを私は、戦争の「忘却」の仕方の一つと捉えることができるのではないかと考えている。戦中の記憶が薄れゆく中で、戦争悪徳という凶式は忘れなければ、それが観念的に認識されていく現象は更に加速するだろう。それに対し、我々はどうのように対応すべきか、今一度考えるべきではないだろうか。

「かけがえない日本、かけがえない世界(15)」 「平和よ永遠なれ!」の願いを込めて

東京葵ライオンズクラブ 元会長 橋口 啓一

私が約30年間所属している東京葵ライオンズクラブでは、1973年(昭和48年)4月の結成の翌年から毎年、春のお彼岸ごろに千鳥ヶ淵戦没者墓苑において「平和よ永遠なれ!」の願いを込めて「戦没者追悼慰霊祭」を、そして秋のお彼岸ごろは「千鳥ヶ淵戦没者墓苑清掃奉仕」を行っております。

「戦没者追悼慰霊祭」には、地元千代田区長、東京地区のライオンズクラブ202クラブのリーダーである地区ガバナーはじめ地区の役員、各ライオンズクラブの会長さんに参列していただき、昨今では、280名を超える大規模な慰霊祭となっております。参列者のうち約50名は「音楽奉奏」をしていただいているマーチングバンドの小学生と、ガールスカウトの皆さんで、この子供たちに「戦争の悲惨さと平和の尊さを語り継ぐ」ことも私たちの責務と考えています。

15年ほど前、メンバーの一人がこの慰霊祭の「閉式の辞」をたまたま担当することになり、「どうすれば戦争の悲惨さを語り継ぐことができるだろうか」と悩んだ末に九州鹿児島県の「知覧特攻平和祈念館」に足を運びました。そこで彼が目にしたのは特攻隊員が書き残した遺書の数々でした。「涙が止まらない」なかで彼は特攻隊員の一つの遺書を書きとめ、それを暗誦して参列者に伝えることで、「閉式の辞」に替えることにしました。

「戦争の悲惨さと平和の尊さ」を観念的な言葉でいくら説いてもなかなか心に響かないものですが、この「遺書」を披露する「閉式の辞」は、参列する皆さんの心を打ち、多くの人が涙なくしては聴けないものとなりました。彼のこの「閉式の辞」は多くの参列者の要望を心に誓う機会になつていて、多くのライオンズクラブのメンバーが声をそろえて言うようになっています。

私は昭和22年生まれで、今年74歳になりますが、戦争をまったく知らない年代ですが、東京葵ライオンズクラブに入会した30年ほど前はメンバーの多くが50歳前後の戦争経験者でした。

「キスカ撤退で生き延びた」「中野学校にいた」「爆撃機に乗っていた」「海兵〇〇期」「インドネシアに駐留していた」「昭和18年の出陣学徒壮行会で雨の中を

(第四面につづく)



福島県遺族会 (4.10.14)



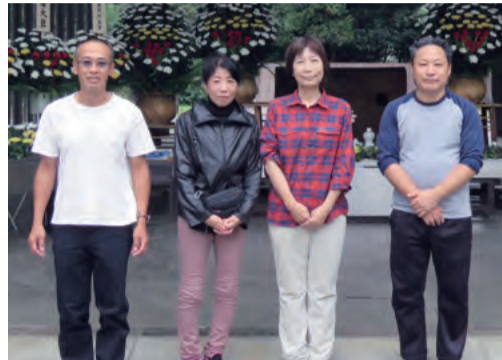
喇叭保存会 (4.10.09)



東京都多摩市遺族会 (4.10.07)



桜晴れ清掃奉仕会 (4.10.30)



トイレ清掃奉仕会 (4.10.22)



神奈川県平塚市遺族会 (4.10.18)



東京都稲城市遺族会 (4.11.9)



埼玉県加須市遺族会 (4.11.1)



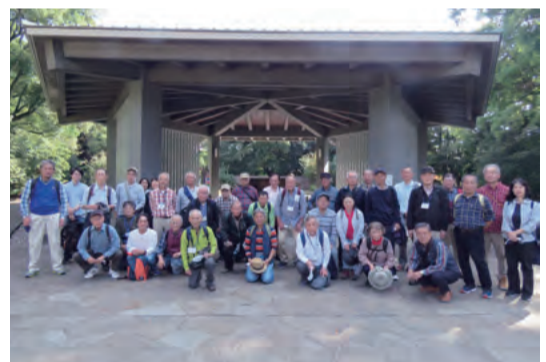
ネットン (株) 参拝 (4.10.30)



愛知県江南市遺族会 (4.11.13)



阿含宗清掃奉仕 (4.11.13)



ミライト歩こう会 (4.11.12)



愛知県長久手市遺族会 (4.11.15)



愛知県知立市遺族会 (4.11.15)



新宿区史跡巡りの会 (4.11.13)

各団体の慰霊参拝

◎奉納・参拝団体・参拝者(敬称略、順不同)
 シベリアクラスノヤルスク遺族会、平塚市遺族会
 和光市遺族会、ソ連抑留戦友・遺族会、静岡市遺族会
 加須市遺族連合会、稲城市遺族会、函南町遺族会、長
 久手市遺族会、知立市遺族会、浦和遺族会、沼津市遺
 族会、蒲郡市慰霊奉賛会、日本遺族会、東京ヤゴダ会
 解脫会南新宿支部、日蓮宗宗務院、普明会教団、念法
 眞教、新日本宗教団体連合会、かむなからのみち、中
 央乃木會、水交会、東京郷友連盟、アジア南太平洋友
 好協会、内閣総理大臣、最高裁判所長官、衆議院議長
 参議院議長、総務大臣、国家公安委員会委員長、宮内庁
 立憲民主党、日本維新の会、国民民主党、全国都道府
 県議会議長会、全国市長会、特別区長会、全国町村会
 千代田区議会議長、日本放送協会、岩手県、福島県
 熊本県、東京都、茨城県、三重県、富山県、和歌山県
 大阪府、岡山県、高知県、佐賀県、山口県、鳥取県
 島根県、福岡県、宮城県、長野県、北海道、埼玉県
 徳島県、新潟県、青森県、香川県、秋田県、奈良県
 栃木県、宮崎県、山形県、鹿児島県、群馬県、愛媛県
 岐阜県、石川県、広島県、愛知県、長崎県、京都府
 沖縄県、千葉県、兵庫県、静岡県、千代田区、大澤一
 久栄、内田十允、野村哲郎、秀平良子、吉永龍陽、安
 藤一感、柴田米實、竹内一香、多田 宏、古賀英松
 芹川いち子、翁 玉恵、廣川貞雄
 ◎奉仕会年度会費納入者(団体・個人)(敬称略、順不同)
 塩野かね、小柴明子、石野辰夫、阿部陽治、福居寛美
 小林まゆ、エコー、亀山和子、亀山恒夫、原田敏裕
 田中富士雄、堤 将純、金子金平、富板鋭子、幸脇盛治
 泉田和則・豊子、鈴木千秋、勝呂洋次、橋本尚理、山
 本英司、橋田尚理、御園生和彦、加藤園栄、小柴明子
 増田健三、矢嶋正久、嶋田雄作、野澤直己、竹村五夫
 吉田博光、小沼 愛、小林孝太郎、合原佳雄、藤井英二
 渡邊一陽、松永紀子、田中隆太郎、金田郷史、田丸淑子
 土師野良明
 ◎新入会員(敬称略、順不同)
 菊池運一、浅香尚洋、山口繁章、笹本拓斗
 ◎参拝団体(前項以外、敬称略、順不同)
 喇叭保存会、喇叭伝承会、千代田区海洋少年団、ミ
 ライト歩こう会、新宿区歴史巡りの会、防衛大学校学
 生
 ◎清掃奉仕(敬称略、順不同)
 阿含宗清掃奉仕、東京ライオンズクラブ清掃奉仕
 トイレ清掃奉仕会、桜晴れ清掃奉仕会
 ◎献花台奉仕者(敬称略、順不同)
 古流正華道(芦沢千啓、居村千愛、瀬下千佳代、谷
 本千裕希、岡田千瞳、内田裕甫)、京葉古流(小浦一
 渡辺一陽、内藤一春)、古流桜会(川合理千、池谷理智
 田端理信、篠原理美、松本理亜)、柴山古流・緑山流(沼
 田冷笑、奥島冷恵、菊池冷瞳、吉川冷京、都古流一孝
 会(内田一孝、内田和宏)、和光古流(高橋理淳、汐満
 理和、木内理祐)、池坊宝生流(長谷川一翠、大澤勝風)
 和光古流(高橋理淳、汐満理和、木内理祐)、池坊宝生
 流(長谷川一翠、大澤勝風)
 令和4年11月30日まで受付分を掲載、12月1日以降
 受付分は次号に掲載します。

（第二面からつづく）
行進した」などと聞くと、ついこの前まで戦争だったように思ったものでした。

そしてそのメンバーの方々だからこそ、戦後30年もたっていない昭和49年ごろ、切実に平和を願い、そして戦場で倒れた仲間を慰霊するために「戦没者追悼慰霊祭」を開催することになったのだと思います。

残念ながら戦争を経験したメンバーは、今や、みな没してしまいました。でもその志はしっかりと我々に受け継がれています。最後に、「慰霊祭」では全国のライオンズクラブに送ってもらったふるさとの水を墓前に捧げる「献水の儀」という次第があります。そのときに戦没者に贈る詩を小生が作り、今でも「献水の儀」のナレーションとしていますので、それを披露させていただきます。

『ふるさとの水』
『凍つく荒野、灼熱のジャングル、あるいは、南海の孤島で、激しい戦闘の中、飢餓の中、戦友の胸に抱かれ、あるいは誰一人として看取る人なく、寂しく散華した、わが息子、わが父、わが兄、わが友、同朋。ふるさとに帰る日もかなわずに、死に際に一口の水さえなく、苦しみの果てに、死を迎えて、逝った英霊たち。』

私たちは、いまここに、今日の平和と繁栄の日本の礎となられた英霊の皆さまに、ふるさとの水を用意いたしました。どうぞお飲みください。

このふるさとの水が、懐かしいふるさとの山河を思い出させることでしよう。そして、どうぞ安らかに眠りください。私たちは、この水に「平和よ永遠なれ」の願いを込めて、英霊の皆さまにささげます。」

三番町町会の茶話会支援について

11月6日、三番町町会田中会長、及び町会を担当される村上民生委員からのご依頼により墓苑会議室にて60歳以上の方々茶話会をされました。冒頭、田中会長は、ご挨拶で「コロナ禍も3年

が経過し、町会の皆さんが目に掛かることが出来ない日が続いております。町会といたしましても感染症対策を徹底しながら、活動を再開しております。今回は町内会の施設でもあります国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑さんのご協力で茶話会を企画しました」と述べ、引き続き奉仕会理事から墓苑の近況を説明し懇談へ移行。「町会では、お一人住まいの方も多く、約1時間の短い時間でしたが、久しぶりに親睦交流を図ることが出来ました」との所見が述べられました。最後に墓前で参拝し戦没者の方々へのお祈りを捧げて茶話会を終りました。奉仕



三番町町内会茶話会

会は今後も地元三番町行事支援の機会があらば、積極的に協力して参る所存。

花手水（なはちようず）

墓苑の維持管理、就中、美化施策として「花手水」は参拝者の目を引いています。環境省職員柳澤弘昌さんが生けられていますので、インタビューに答えていただきました。

Q1、どのようなお考え・アイデアですか
手水鉢は元来身を清めること、手水舎の前で心を落ち着かせ邪念を払う等行う場所ですが、入口から若干見えにくい場所のため、今年5月から紫陽花、生け花を飾っております。

Q2、墓苑の環境整備で特に心掛けられていることがあれば教えてください。

秋冬時には落葉樹も定期的に葉を落としておりますので清掃も時折苦になることとありますが、季節を感じられるよう心掛けています。更には六角堂などには春秋と年2回季節の花を生けており参拝者の皆さんの心を落ち着かせるサポートを

させていただきます
Q3、参拝者の皆さんへお伝えすることがあれば
墓苑施設の利用と先人の御霊に対して参拝して頂きたい願っております。合わせて手水花に和んでいただけたらと思っています。



花手水作り 柳澤さん (4.10.28)

墓苑の整備に邁進される管理事務所の皆さんに感謝いたします。

謹んで新年のお慶びを申し上げます

- 日本遺族会
- 中央乃木会
- 東郷郷会
- 偕行社
- 日本郷友連盟
- 英霊にこたえる会
- 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
- 特攻隊戦没者慰霊顕彰会
- 水交会
- 三笠保存会
- 靖国神社
- 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会

墓苑便り(奉仕会だより)

1 1月〜2月献花の予定

- 松風花道会 中川 玲水
- 藤栄流 落合 一文
- 古流わかば会 武藤 理春
- 古流茂風会 大藤 茂風

2 各種会議の開催

- 通常理事会 2月14日(火) 予定
 - 慰霊行事調整会議 2月下旬予定
- (新型コロナウイルス感染防止の観点から実施要領を検討中)



こどもの国 ふれあい学び館



宝くじ桜



一輪車



ユニバーサルデザイン施設
ピクニックテーブル



移動採血車

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、災害に強い街づくりまで、みんなの暮らしに役立っています。



地震免震体験装置



フラワープランター



総合検診車



テント



消防団防災学習・災害活動車両



ドリームジャンボ絵本



一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会
https://jla-takarakuji.or.jp/

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。